

# teacher's voice

このコーナーでは、進路指導や学習指導において心掛けていることについて、読者の先生方から寄せられたコメントを紹介する。

今回のテーマ

## 『高校入学当初に学習習慣を定着させるために、どのような指導・声掛けを行っていますか』

### 勉強合宿などで高校での勉強法を伝える

4月上旬に1日オリエンテーションの時間を設け、高校での学習全般についてや学習への心構えを学習指導担当から、学習法のアドバイスを各教科担当から伝える。1日の勉強時間は平日で学年+2時間としているが、質の高い学習をするよう声掛けをしている。

新入生宿泊研修で英語・数学・国語の学習ガイダンスを行うほか、授業では具体的に予習の方法を指示するように努めている。高校の学習は、中学校とは質・量とも比較にならないので、予習をしなければ授業が成り立たないことを強調している。

オリエンテーション合宿を通じて、高校生活へスムーズに入れるような気持ちの切り替えを実施している。各教科の担当者が予習の仕方を伝えたり、部活動との両立、スマートフォンの過度の利用を避けるなど、生活についての全体的な話をする。その上で、各担当が個人面談を実施することで、学習への意識を高めている。

### 課題・小テストを活用して習慣付けを促す

小テストや課題は、勉強に取り組む習慣をつけ、達成感を持たせるために少し難易度を落としている。やらないのが当たり前、という雰囲気させたくないの、皆で「やろう」という意識を持たせるよう声掛けしている。

週末の課題を毎週出すことで習慣付けが可能である。教科担当がそれぞれに課題を出すので混乱するので、学年で教科間の調整を行い、英語・数学・国語を中心に家庭学習の総時間を考える必要がある。どの教科も大事だからといって一様に予習・復習をさせるのではなく、1年生は英語と数学など、重点を置く教科を決めることが肝要である。

高校生活に慣れてくる5月の連休明けころから、漢字や英単語などの小テストを週に1回程度実施している。小テストでは合格点を設け、その点数に到達しなかった生徒には再テストや特別課題を与えている。

### 学習時間を記録させ、指導に生かす

入学当初の約1カ月間は、家庭学習の大切さを繰り返し教え、生徒全員に毎日学習時間などを記入する日記をつけさせる。毎日、学習日記をチェックし、学習時間が1時間以下の生徒には「この時間をもっと活用できそうだね。学習時間に回したら？」などと声掛けする。

入学当初は毎日、家庭学習時間を書かせて提出させている。徐々に週に一度、月に一度と提出頻度を減らしていき、最終的には面談で時々チェックする程度にし、学習習慣の定着を図っている。毎日勉強すること、まず英語・数学を中心にする、平日3時間、休日7時間の家庭学習時間を確保するよう促している。

学年+2時間を目標にするよう声を掛けながら、学習時間を専用の用紙に記入させています。起床時間、学習時間、食事の時間、就寝時間を固定するよう保護者に対してもお願いし、生活習慣の安定を図ります。

予習→授業での理解→復習での定着というサイクルの確立が全ての土台であることを強く意識させるようにしている。自学自習の定着のため、入学後の1カ月間は全員、放課後1時間の自習を義務付けている。日々の学習記録、週末課題の計画表を配布し、毎週月曜日に提出させている。曜日ごとに教科を決めて朝学習を行い、平常点として評価に加味している。

させられる勉強ではなく、自ら進んで行う勉強にする。予定を立てるだけでなく、1日の勉強の結果を記録し、自ら振り返り、次の1週間の勉強予定につなげるよう指導する。高校生になると、1日に全ての教科を満遍なく勉強するのは難しいので、ある日は数学と日本史、また別の日は英語と古典のように、一定の期間で勉強の予定を立てさせるようにしている。教員は1週間・1カ月ごとに振り返って漏れないか、勉強が特定教科に偏っていないかを確認する。